

Be Fine!

株主の皆様とシスメックスをつなぐコミュニケーション誌

シスメックス 挑戦の軌跡 ④

未知なる領域への挑戦 …… 5ページ



済南の趵突泉公園 (中国)

試薬売上が堅調に推移し 増収となるも、 利益は前年同期を 下回りました。

代表取締役会長兼社長 CEO

冨 次 恒

いえつく ひさし

【出身地】大阪【略歴】大学を卒業後、銀行に13年間勤務。その後、東亜医用電子株式会社(現シスメックス株式会社)に入社。1996年に代表取締役社長、2013年に現職に就任。【趣味】読書、スポーツ観戦【信条】「意あらば通ず」



- ポイント 1 **ヘマトロジー分野***などを中心に試薬売上が伸長し、増収を達成
- ポイント 2 **四半期利益***は、前年度の**関係会社売却益**の影響などにより減益

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

当社グループの2019年3月期 第3四半期の業績は、ヘマトロジー分野や血液凝固検査分野、免疫検査分野を中心とした試薬売上の伸長およびライフサイエンス事業の堅調な推移により、増収を達成しました。一方で、前年度の一過性の要因による影響や事業の拡大に伴う研究開発費の増加などにより、営業利益は減益となりました。また、税負担率は低下したものの、前年度の関係会社売却益の影響などにより四半期利益も減益となりました。売上高は前年同期比2.9%増、営業利益は同4.5%減、親会社の所有者に帰属する四半期利益は同5.4%減となりました。なお、前年同期の為替レートを適用した場合、売上高は前年同期比3.7%増、営業利益は同5.0%減となります。

所在地別売上高では、日本は各分野の試薬売上の伸長などにより増収となりました。海外は、アジア・パシフィックで前年同期の大型案件の反動があり減収となるも、その他の所在地で

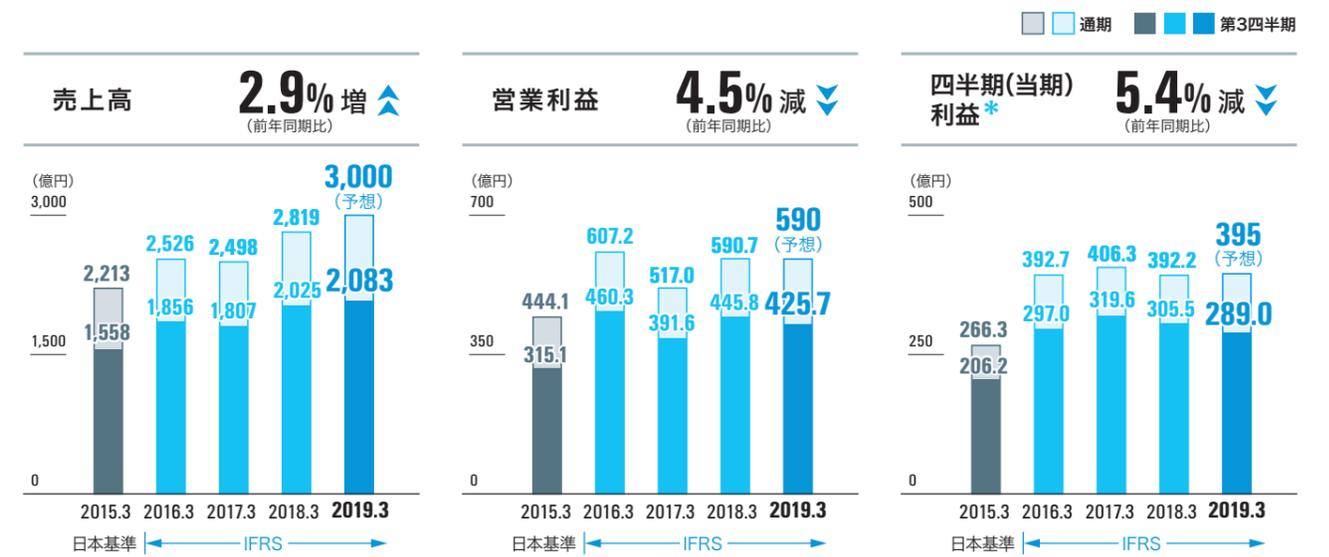
は堅調な試薬売上の伸長などにより増収となりました。これらの結果、当社グループの海外売上高比率は84.7%となりました。

なお、2018年11月に公表した2019年3月期通期の連結業績見通しに変更はありません。*

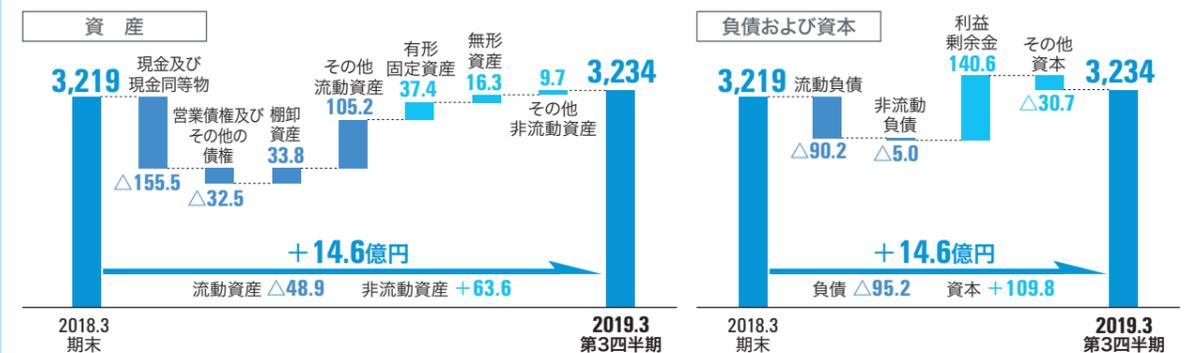
第3四半期のトピックスとしては、2018年12月に国立研究開発法人国立がん研究センターと共同で開発を進めてきた「OncoGuide™ NCC オンコパネル システム」が、がんゲノムプロファイリング*検査用のシステムとして国内で初めて製造販売承認を取得しました。本システムを活用することで、患者さん一人ひとりの遺伝子変異に合わせた薬剤・治療法の選択が可能となります(詳細は、裏表紙のトピックスをご参照)。新たながん診断法を一日も早く患者さんにお届けすることで、医療の発展と進化への貢献を目指します。

株主の皆様には、今後ともより一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

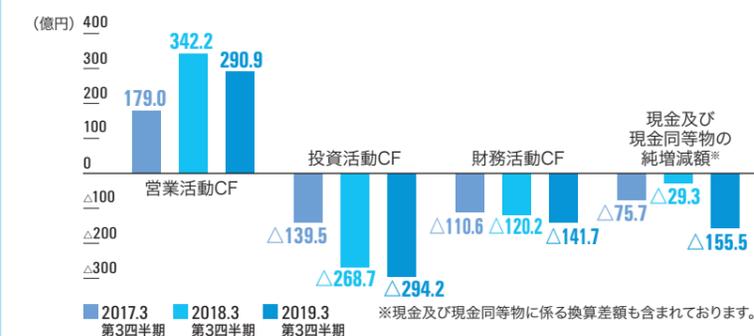
※業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成したものであり、今後さまざまな要因によって予想数値と異なる可能性があります。



■連結財政状態計算書の増減要因 (億円)



■キャッシュ・フローの推移



ウェブサイトのご案内

シスメックスレポート2018

当社の中長期的な価値創造についてご理解いただけるよう、財務・非財務情報を簡潔にまとめた統合報告書です。

第6回WICIジャパン 統合報告優良企業賞で「統合報告奨励賞」を受賞!

ぜひご覧ください! www.sysmex.co.jp
IR情報>IR資料室>アニュアルレポート

利益配分(配当)に関する考え方について

当社は、安定的な高成長を持続させるための積極的な投資と、収益性の向上に伴う株主の皆様に対する利益還元との適正なバランスを確保することを目指しております。株主還元については、継続的な安定配当に留意するとともに、業績に裏付けられた成果の配分を行うという基本方針のもと、連結での配当性向30%を目処に配当を行ってまいります。

本資料のうち、業績予想等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づき算出しており、判断や仮定に内在する不確実性および今後の事業運営や内外の状況変化により、実際の業績等が予想数値と大きく異なる可能性があります。

*ヘマトロジー分野:血液中の赤血球や白血球などの数や種類、大きさを分析することにより、精密な検査が必要かどうかを判断するための検体検査分野。

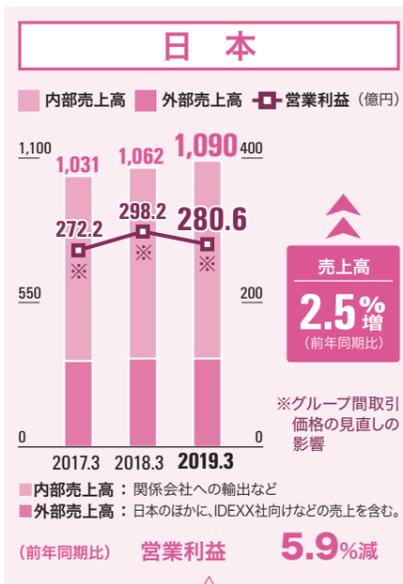
*四半期(当期)利益:親会社の所有者に帰属する四半期(当期)利益。

*がんゲノムプロファイリング:がんの診療上重要な遺伝子の情報(がん組織中の複数の遺伝子の変異や増幅、融合など)を解析すること。

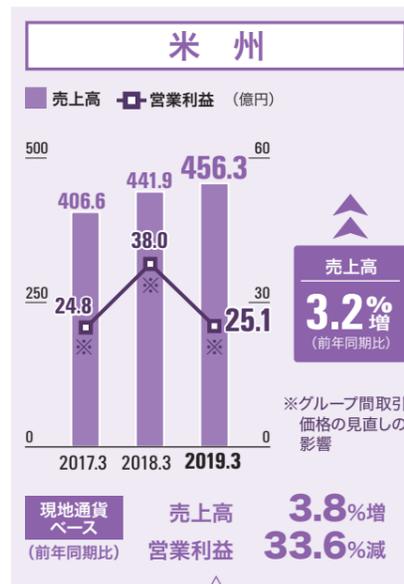


(為替レート(期中平均)) (円)

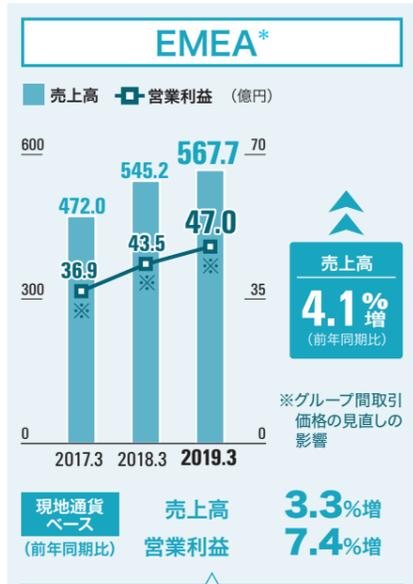
	2017年 3月期 第3四半期	2018年 3月期 第3四半期	2019年 3月期 第3四半期
1USDドル	106.6	111.7	111.1
1ユーロ	118.0	128.5	129.5
1中国元	16.0	16.6	16.6



- 1 ピオメリュー社との合併解消により国内売上が減少するも、IDEXX社および海外関係会社向けの売上が伸長し、増収
- 2 前年度の一過性の要因に加え、研究開発費の増加などもあり、減益



- 1 中南米でヘマトロジー分野*の売上が減少するも、米国でヘマトロジー分野の試薬や血液凝固検査機器の売上が伸長し、増収
- 2 グループ間取引価格の見直しなどの影響が増収効果を上回り、減益



- 1 新興国の通貨安の影響があるも、ヘマトロジー分野やライフサイエンス事業の売上が伸長し、増収
- 2 グループ間取引価格の見直しなどによる原価率の改善や、増収効果による粗利益の増加により、増益

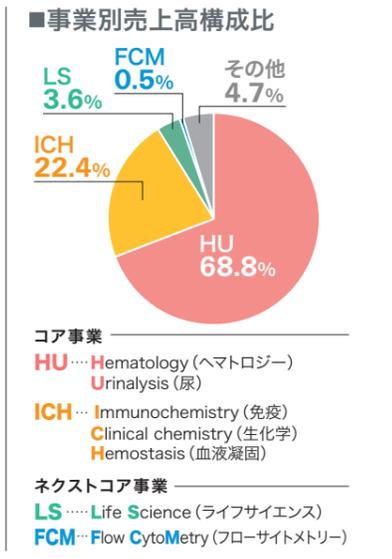
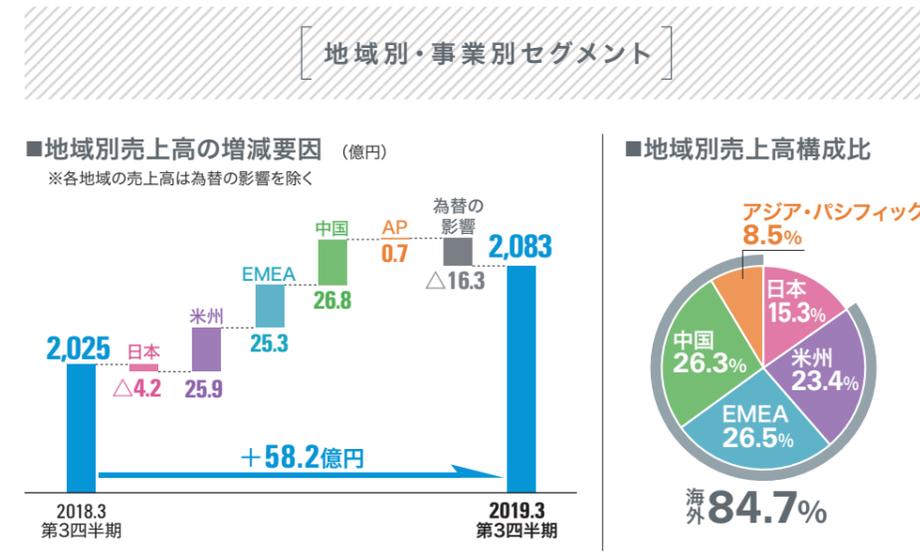


- 1 好調な免疫検査分野や血液凝固検査分野での試薬売上の伸長が、機器売上の減少を補い、増収
- 2 グループ間取引価格の見直しの影響はあるも、試薬売上の伸長などにより粗利益が増加し、増益



- 1 韓国やタイなどで売上が堅調に推移するも、前年同期の南アジアでの大型案件の影響などにより、減収
- 2 グループ間取引価格の見直しや販売管理費の増加の影響はあるも、試薬売上の伸長などにより、増益

(注) 日本からモンゴルなどへの直接販売は、日本の外部売上高に含む。



グローバルレポート

さらなる事業拡大を目指し、中国市場向け製品の生産・販売を開始

急速な経済発展を遂げる中国では、医療費の高騰などを背景に、医療資源の分配・効率化が推進されています。その一つとして、医療機関を等級別に分類・管理し、高度な医療が受けられる3級病院に集中する患者さんのうち、比較的軽度の症状が軽度、または慢性疾患の患者さんを2級以下の病院へ誘導する「分級診療制度」が進められています。

シスメックスはこれまで、中国市場の成長性にいち早く着目し、現地での試薬生産体制や販売体制の構築を進め、事業を拡大してきました。そしてこのたび、病院数や患者数の増加が見込まれる2級以下の病院を主な対象とする中国市場向けのヘマトロジー製品「XS-500ix」を発売。本製品は「ノックダウン生産方式」を当社で初めて採用しており、市場の特性に合わせた製品供給体制を強化することで、中国市場でのさらなる事業拡大を目指しています。今後も、各地域に最適化された体制の整備や製品・サービスのラインアップ拡充により検査の標準化・効率化を加速し、医療の発展に貢献します。

中国では、経済発展に伴って医療制度改革が進められているのよ

■分級診療制度

高 医療水準 低

3級病院 病床数 500床以上
2級病院 病床数 100~499床
1級病院 病床数 20~99床

患者さんが集中
比較的軽度の症状が軽い患者さんや慢性疾患の患者さんを誘導

症状に合わせて患者さんを適切な病院に誘導しているんだね

ノックダウン生産方式とは...
部品を現地で組み立てて完成品とする生産方式。「XS-500ix」は加古川工場加工・製造された主要部品を用いて、中国の済南工場にて組立・調整・検査などを行い出荷されます。

高機能・小型・微量血測定をコンセプトとする「多項目自動血球分析装置 XSシリーズ」の中国向け製品「XS-500ix」

未知なる領域への挑戦

2018年に創立50周年を迎えた当社の歴史をご紹介します。当シリーズ。最終回となる今回は、持続的な成長の実現に向けて、ライフサイエンスという未知の領域に挑戦してきた歴史についてご紹介します。



テクノセンター(現・テクノパーク)内に中央研究所を設立。



2006 ライフサイエンス分野における当社初の製品となる遺伝子増幅検出装置「RD-100i」と試薬「リノアンプBC」を欧州にて販売開始。



2008 「“知”の創造と継承」をコンセプトに、中核研究開発拠点「テクノパーク」を開設。



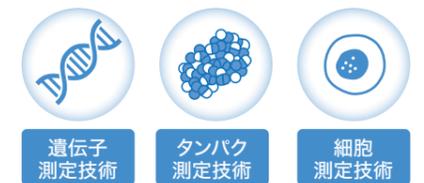
2013~ アイノスティクス社、バルテック社、株式会社理研ジェネシスなどを子会社化し、技術基盤を拡充。

シスメックスの強み

3つの技術基盤を活用した独自の研究開発力

創立以来培ってきた独自の技術に加え、優れた技術を保有する企業の子会社化などを通じて、血液中などの遺伝子・タンパク・細胞を測定する技術を確立。3つの技術基盤を持つことで、これまでにない新たな検査の可能性を追求しています。また、事業分野の拡充とともに育んできた大学、医療・研究機関、製薬企業などとの関係を活かし、共同研究・共同開発を展開。臨床価値の高い検査・診断技術のいち早い創出と事業化を目指しています。

シスメックスの技術基盤



外部機関との共同研究・共同開発

ヘルスケアの進化に貢献するため 新たな領域に挑戦

シスメックスはヘマトロジー分野*を中心に、血液凝固検査、尿検査、免疫検査などの分野にも参入し、事業を拡大してきました。当社にとって大きな転機となったのが、2000年の中央研究所の設立に始まるライフサイエンス分野への挑戦です。

当時、世の中ではヒトゲノム(ヒトの遺伝情報)の解析が進むなど、医療を革新する新たな技術への注目が高まっていました。社長の家次恒(現・代表取締役会長兼社長 CEO)は、今後ますます重要になってくるであろう遺伝子解析をはじめとするライフサイエンスに着目し、従来にはない技術の確立に向けて動きます。中央研究所の設立を機に、生物系などの専門人材を仲間を迎えて新たな研究開発体制を構築し、これまでの既

存技術にとらわれない新しい分野への挑戦を開始しました。そして、数ある研究テーマのうち、まず着目したのが「がん遺伝子診断」の分野です。当時、早期乳がん手術では、切除したリンパ節の断面を顕微鏡で確認しがん転移の有無を調べる病理検査において、転移判定の困難さや、熟練した病理医の不足が課題となっていました。そこで2001年、技術提携した栄研化学株式会社の遺伝子検査技術の知見をもとに、がんのリンパ節転移を世界最速の約30分で自動で検出する技術を開発。この技術を用い、リンパ節を丸ごとすりつぶして転移の有無を確認できるようにすることで検査の効率化や検査精度の向上はもちろん、患者さんの負担軽減にもつながるという価値を創出しました。そして2006年、本技術を活用した遺伝子増幅検出装置「RD-100i」と試薬「リノアンプBC」の欧州での発売を機に、シスメックスにおけるライフサイエンス事業が立ち上がります。

新たな価値の創造に向けた 技術基盤の強化と“知”の融合

その後も当社は、新たな検査・診断技術の創出に向けた投資を続けてきました。2008年には創立40周年を機にテクノセンターを拡張し、「テクノパーク」を開設。その後、「テクノパーク」を中核拠点として国内外に研究開発拠点を設け、グローバルに研究開発体制を強化しました。社外の優れた技術や知見を取り入れ、技術基盤を強化する取り組みも進めました。新たな技術の獲得に向け、2013年にはドイツのアイノスティクス社とバルテック社、2016年には株式会社理研ジェネシス、2017年にはイギリスのオックスフォード ジーン テクノロジー社を子会社化。また、国立がん研究センターをはじめとするお客様との協創や、新たな技術を有する研究機関、製薬企業などとの共同研究・共同

開発にも積極的に取り組んでいます。近年、これらの取り組みは、遺伝子検査事業として実を結び始めています。2018年12月には、国立がん研究センターと共同開発を進めてきたがんゲノムプロファイリング*検査用システムが、国内で初めて製造販売承認を取得しました(裏表紙のトピックスご参照)。遺伝子情報に基づき治療を行っていく“がんゲノム医療”の実現に向けて、シスメックスはこのような研究開発を進め、健康寿命の延伸や患者さんのQOL(生活の質)向上に貢献していきたいと考えています。シスメックスは創立以来、新たな価値の創造に挑戦し続けることで持続的な成長を実現してきました。その挑戦は、現在も続いています。世界中の人々の健康に貢献するために、シスメックスは医療の未来を切り拓く診断の革新に、これからも挑戦し続けます。

5 *ヘマトロジー分野:血液中の赤血球や白血球などの数や種類、大きさを分析することにより、精密な検査が必要かどうかを判断するための検体検査分野。

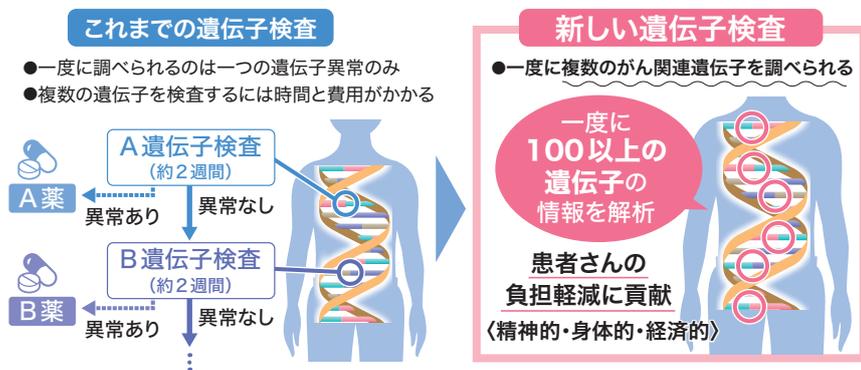
*がんゲノムプロファイリング:がんの診療上重要な遺伝子の情報(がん組織中の複数の遺伝子の変異や増幅、融合など)を解析すること。

個別化医療の実現に貢献する がんゲノムプロファイリング*検査用システムが 国内で初めて製造販売承認を取得

当社は、がんの複数の遺伝子を同時に測定・分析する「がん臨床シークエンシング検査」の臨床現場への早期導入に向け、国立がん研究センター中央病院内に国際基準に準拠したラボを開設し、臨床研究プロジェクトへ参画してきました。2018年12月、同センターと共同開発を進めてきたがんゲノムプロファイリング検査用「OncoGuide™ NCCオンコパネル システム」が、国内で初めて製造販売承認を取得しました。

本システムは、標準治療を終えた患者さんなどのがん組織（対象：全ての固形がん）の遺伝子を網羅的に解析することで、遺伝子変異に応じた治療方針の決定や抗がん剤の選定、投薬の判断など、一人ひとりに最適な医療（個別化医療）を提供するために活用されます。より多くの患者さんに本システムを用いた検査を受けていただけるよう、早期の保険適用への期待が高まっています。

*がんゲノムプロファイリング：がんの診療上重要な遺伝子の情報（がん組織中の複数の遺伝子の変異や増幅、融合など）を解析すること。



50周年を機にグループ全体で 社会貢献活動を実施

創立50周年を機に「より健康な社会を目指す」というグローバル統一テーマを掲げ、グループで一体感を持った社会貢献活動を推進しました。その一つとして「がん」に関連するイベントに積極的に参加し、グローバルで647名の従業員がチャリティウォーク・ランなどに参加しました。今後も継続してグループ一丸となり活動を推進していきます。



イギリスでの活動



アメリカでの活動

株主様アンケートのお願い

今後の充実した誌面づくりのため、アンケートへのご協力をお願いいたします。

アンケートはがきを同封しています



会社概要

(2018年12月31日現在)

■商号 シスメックス株式会社
SYSMEX CORPORATION

■設立年月日 1968年2月20日

■資本金 125億7,013万円

■格付け AA- (R&I: 格付投資情報センター)

■従業員数 8,609名(連結) 2,548名(単独)
*嘱託・パートタイマーなどを含む

■主な事業内容 臨床検査機器、検査用試薬ならびに関連ソフトウェアなどの開発・製造・販売・輸出入

株主メモ

■事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

■定時株主総会 6月

■基準日 定時株主総会 3月31日
期末配当金 3月31日
中間配当金 9月30日

■上場証券取引所 東京証券取引所市場第一部

■証券コード 6869

■単元株式数 100株

■株主名簿管理人・特別口座の口座管理機関
〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

その他必要がある場合は、あらかじめ公告いたします。

■公告方法

当会社の公告方法は、電子公告とします。
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
電子公告掲載ホームページアドレス www.sysmex.co.jp/ir/

■同連絡先 (郵便物送付先・電話照会先)

〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
電話 0120-094-777 (通話料無料)

お知らせ

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることになっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。 2. 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取り扱いいたします。 3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。